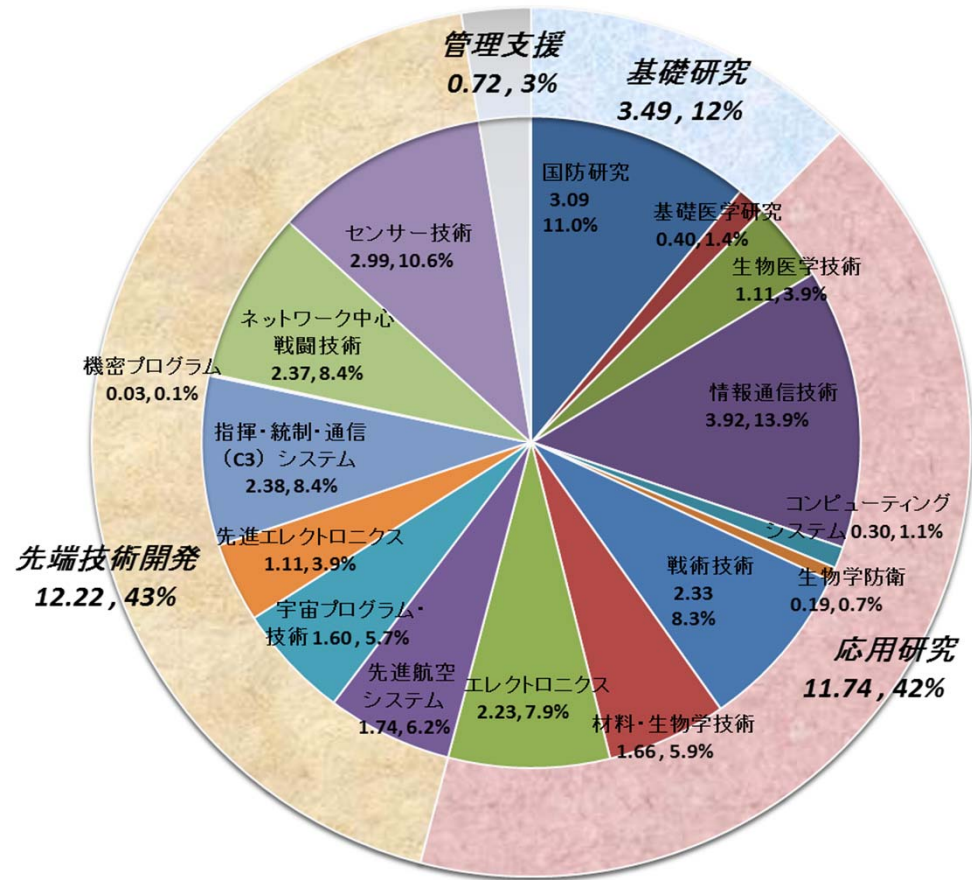


DARPAの予算内訳(2013年度要求)

- 年間予算は 約30億ドル
 - DARPA 予算は慣例的にDOD 科技予算の約25%
 - 製品改良の研究開発に75%、新製品開発に25%投資するという産業界の慣行にならう

- 戦略計画(2011年)における重点分野

- 【戦略目標】グローバル情報・監視・偵察(ISR)、適応型製造、適応型インターフェース、医療・人的システム、サイバーと動力学、新しい軍隊
- 【中核技術】材料、マイクロシステム、エレクトロニクスとフォトニクス、量子、宇宙、エネルギー、位置調整・ナビゲーション・同期



DARPAの組織



20th Director
Dr. Arati Prabhakar

局長
局長室 Director's Office

管理部門 Staff Offices
(管理運営室・会計監査室・契約管理室等)



「DARPAモデル」

- 1. ハイリスク・ハイペيوف研究の支援に特化**
 - 研究所や施設を持たず、画期的なブレイクスルーを志向する研究支援に専念
 - 優秀な研究者によるチーム編成と相互の連携
- 2. 明確な課題設定、目標の明確なプロジェクト形成**
 - 国防上の技術課題解決を目指してプロジェクトベースで任務を実施
- 3. プログラム・マネジャー(PM)主導のプログラム運営**
 - PMは広範な資金上の決定権限と公募採択における裁量権を有する
 - “100 geniuses connected by a travel agent”
- 4. 任期付き雇用のスタッフによるローテーション・システム**
 - PMなど技術マネジメントスタッフは全員が期限付き契約(3~5年)
 - 新しいスタッフ=新しいアイデア。PMは毎年25%程度が交代
- 5. 小規模・フラットで柔軟な組織運営**
 - 上級技術スタッフ20人、PM約100人、全体でも約220人
 - 局長・室長・PMのフラットな構造。管理業務は外注化
- 6. コンセンサスよりも個人の判断を尊重する意思決定スタイル**
 - ピアレビューは部分的にしか用いない。個人の責任で迅速に判断
- 7. 失敗を許容する文化、sense of urgency(スピード感)の重視**
 - リスクの高い技術上のアイデアを追求することを奨励

DARPAの心臓部:プログラム・マネジャー(PM)

- PMは、新しいアイデアの探索、プログラムの企画立案、進捗状況の監督、マイルストーンによる評価管理、顧客・ユーザー・同分野の研究者との調整、資金提供、研究活動の指導など多岐にわたる業務を実施
- 米国の研究開発プログラム選定の主流は「ピアレビュー」方式だが、DARPAのPMはプロジェクトの策定、立案から遂行に至る全過程で大きな裁量権をもつ。



	DARPA (プログラム・マネジャー)	NSF/NIH (プログラム・オフィサー)
人数	約100人	NSF: 約400人 NIH: 約1000人
役割	プロジェクトの企画・立案・推進者、強力な裁量を持った審査員	ピアレビューの調整者
基本的な審査基準	科学技術的価値、DARPAミッションへの貢献度	科学的価値、教育的効果
審査においてウェイトを占める要素	技術課題解決への貢献可能性をPMが判断	ピアレビューにおける合議結果
ファンディング対象	制限無し	学術機関(大学)がメイン